

# 医学部「発生学」鳥類胚解剖実習

担当：若松、吉川、木村

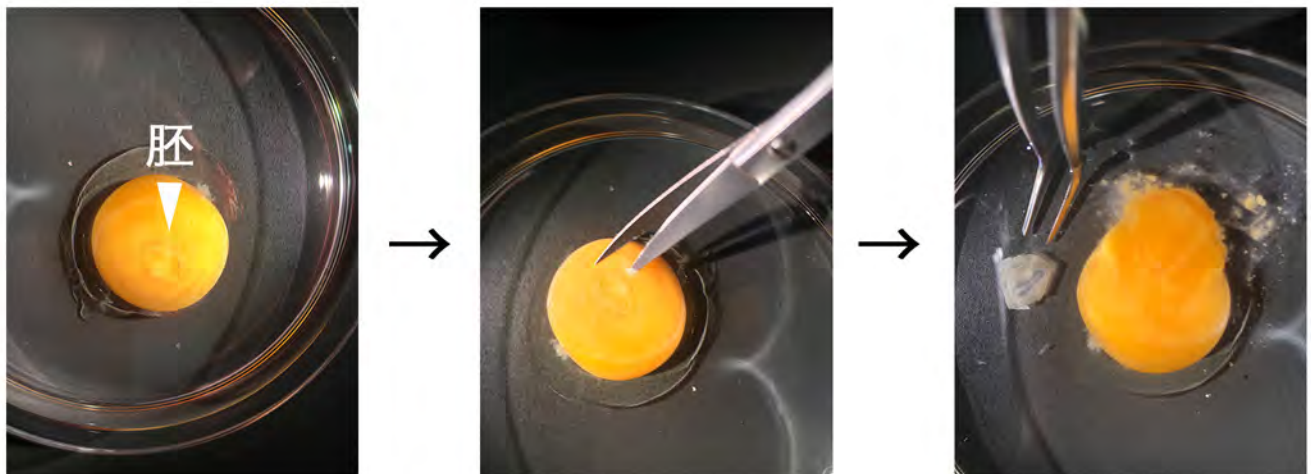
## 1. ウズラの卵から胚を取り出す

その(1): 孵卵1.5日



専用のハサミを使って卵の尖った方を切る。

注意点：尖った方を切るのは、そちらを下にして孵卵したから。  
卵黄を傷つけないよう、少しずつ隙間を作ること（矢頭）。

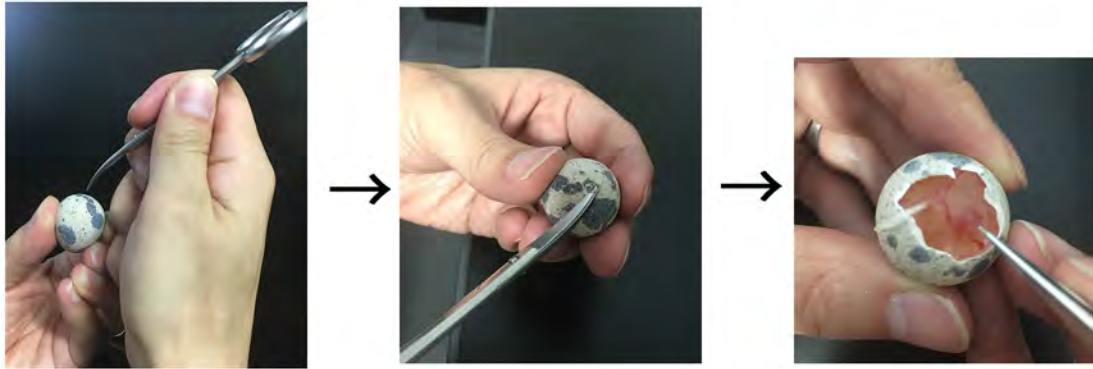


卵黄、卵白ごと生理食塩水の入ったシャーレに出す。

ハサミで胚（矢頭）の周囲を切り、  
ピンセットを使ってそっと卵黄から外す。  
外した胚はピペットでそっと新しい  
生理食塩水の入ったシャーレに移す。



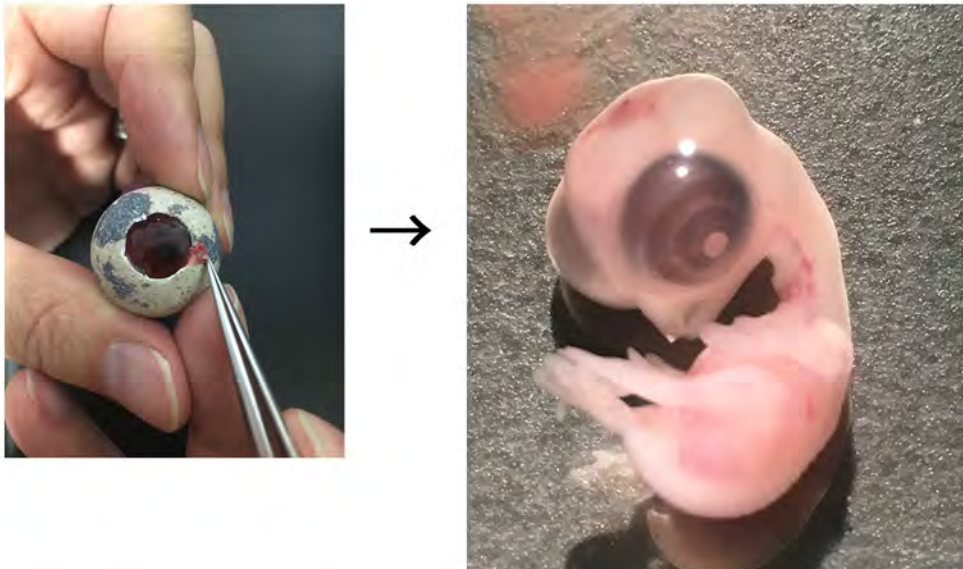
## その(2): 孵卵3.5日



ハサミで卵の丸い方（気室がある）をつついて穴を開け、  
ハサミとピンセットを使って徐々に穴を大きくする。  
胚のいる位置（矢頭）の周囲を切り、ピペットで胚を吸って  
生理食塩水の入ったシャーレに移す。  
ピンセットで胚体外膜を取り除く。



## その(3): 孵卵7日



3.5日胚と同様、ハサミで卵の丸い方（気室がある）をつついて穴を開け、  
ハサミとピンセットを使って徐々に穴を大きくする。  
中身をすべて生理食塩水の入ったシャーレに移す。  
ピンセットで新しいシャーレに胚を移し、胚体外膜を取り除く

## 2. ウズラ胚の観察

- (1) サイズの違い、すなわち数日間での爆発的な細胞の増殖を実感しよう。
- (2) 3.5日胚で脳の各部位（大脳、中脳、後脳）、眼、心臓、肢芽等を確認しよう。
- (3) 7日胚での脳や、顔面、眼、手足の発達を確認し、3.5日胚との違いを観察しよう。
- (4) 7日胚の足を切り落として、指と指間部が細胞死によって切り離される途中を観察しよう。
- (5) 7日胚の胸部を開いて、内臓が発達してきている様子を観察しよう。
- (6) ルーペで確認できないものは、実体顕微鏡で観察しよう。

